

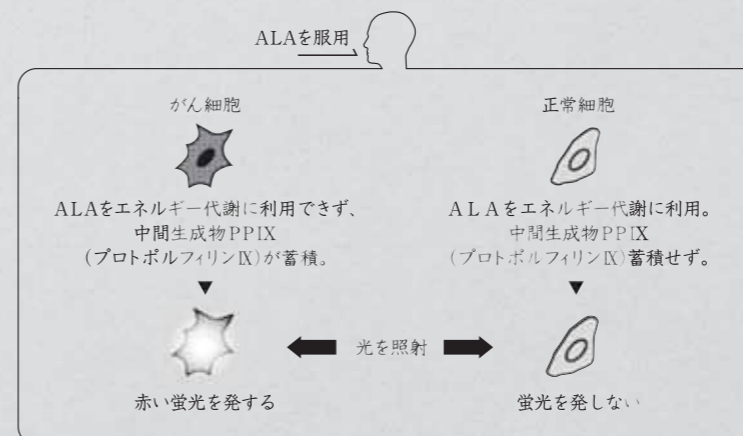
広告ではなく、報告をお届けします。

ALApplus 研究所 REPORT

ALAの、さまざまな分野における 研究成果を3つレポートいたします。

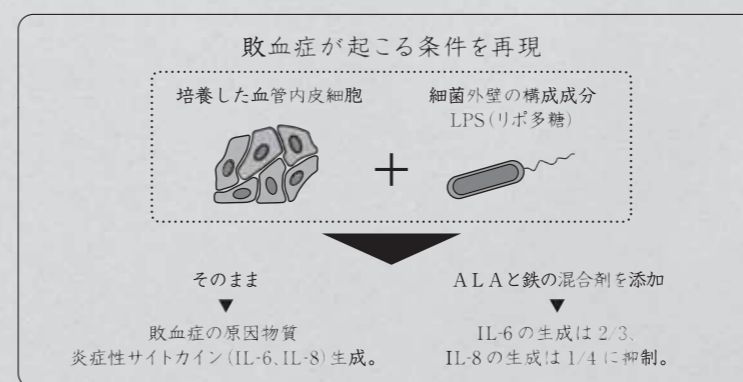
日本癌治療学会第49回学術総会にて発表。

進行胃がんにおいては転移が恐れられており、最も多い再発の原因は「腹膜播種」。これは、胃壁を貫いたがん細胞が、腹腔内にこぼれて広がっていく転移です。日本癌治療学会第49回学術総会では、地方独立行政法人大阪成人病センター、京都府立医科大学の各機関における研究で、「腹膜播種」の診断におけるALAを用いた光動力学的診断(PDD)の有効性が発表されました。



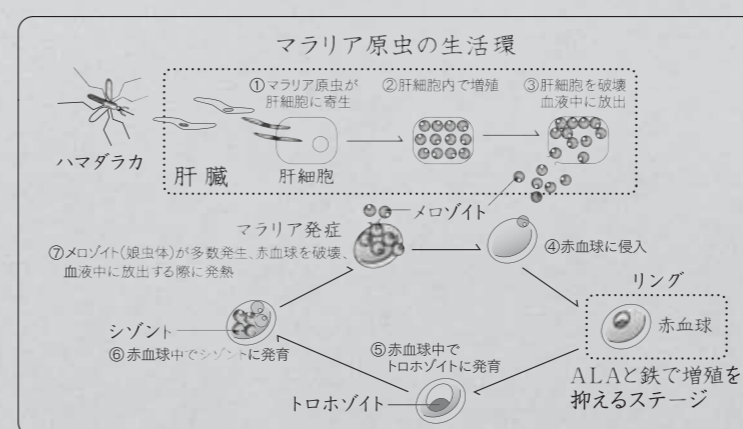
第39回 日本救急医学会学術集会にて発表。

敗血症とは、血液が細菌に感染することにより引き起こされ、たとえ細菌を抗生物質で殺しても、細菌自体が持っている物質が、全身の炎症をもたらす、患者の約30%が死亡する病気です。救急医療の現場における大きな未解決の課題のひとつになっています。第39回日本救急医学会学術集会では、日本大学らの研究で、敗血症の原因である炎症性サイトカインにおける、ALAの産生抑制効果が発表されました。



第71回 日本寄生虫学会東日本支部大会にて発表。

熱帯熱マラリアは、年間3~5億人が感染し、150~270万人が死亡していると言われる、世界三大感染症のひとつです。マラリア原虫の感染によって発症しますが、有効なワクチンがなく、薬剤耐性マラリアの出現、地球温暖化による汚染地域の拡大から、新規抗マラリア薬の開発が急務となっています。第71回日本寄生虫学会東日本支部大会では、東京大学らの研究で、ALAと鉄を加えることによる、マラリア原虫の増殖抑制効果が発表されました。



日本国内にとどまることなく、世界中で、さまざまな分野での研究が進み、注目を集め続けるALA。ALApplus 研究所 (www.ala-plus.jp) では、さらに詳しい情報をご紹介します。

ALApplus 研究所

ALApplus 研究所から。

SBI ALApromo
www.ala-plus.jp